

ふくおか & MAFF

2024.2

Vol.56

2024年2月19日発行

MAFFとは農林水産省の英語表記「Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries」の略称です。

Contents

- 農業委員会で活躍する女性を紹介します！（篠栗町）
- やまものの森プロジェクト（那珂川市）～産学官の連携で特産品を育成～
- 既存施設を活用した新たな堆肥製造の実証（JA筑前あさくら）

農業委員会で活躍する女性を紹介します！（篠栗町）

篠栗町農業委員会は、令和5年7月の改選で女性農業委員が5名となり、定数12名のうち女性が占める割合は41%と、全国的に見ても高い女性登用率です。積極的に活動している女性農業委員の皆様と事務局長の松熊様に、女性登用の推進や活動状況などを伺いました！

家族の協力を得て活動しています。農地関連のことをあまり知らず不安もありましたが、勉強になることも多く、農業委員になって良かったと思っています！

委員：元榮 聡子氏
（1期目、農業者）

就任当初、女性が少ない中、話を聞いてもらえるか不安もありましたが、男性委員の方々は、誰の意見でも真摯に聞いてくれるので、とても良い雰囲気です。

委員：三代 由美子氏
（3期目、司法書士）

司法書士の仕事で農地法に携わることがあるため、声掛けいただき、「町に貢献できれば！」という思いで委員となりました。悩むこともありますが、勉強しながら活動しています。

委員：加留部 恭子氏
（1期目、司法書士）

地域からの推薦で農業委員になりました。農地のパトロールをすると、田畑なのかわからない山林化している遊休農地が多くて驚きました！

委員：藤木 まゆみ氏
（1期目、農業者）

女性農業委員の活躍を男性農業委員に知ってもらうことが、とても大事だと考えています。また、農業委員会事務局の理解と働きかけがあったことから女性農業委員の増加に繋がったと思います。

会長：鷹巣 礼子氏
（5期目、農産物加工グループ代表）



篠栗町農業委員会の女性委員の皆様。会長を女性が務められています！

撮影日：令和6年1月



意見交換の様子

撮影日：令和6年1月

一 事務局の働きかけは？ 松熊事務局長より

改選の際は、女性委員と協力して、幅広く働きかけを行いました。鷹巣会長が2期連続して会長を務めていただいたことも非常に心強く、女性も安心して応募できたと思います。平野部での土地開発、山間部の遊休農地の増加といった課題もありますが、委員の皆様と協力して農地利用等の最適化を推進していきます！

意見交換、ありがとうございました！

記事作成担当：九州農政局福岡県拠点地方参事官室 後藤、安永

やまももの森プロジェクト（那珂川市）

～産学官の連携で特産品を育成～

那珂川市産のやまももを活用した特産品の開発に産学官の連携で取り組む「やまももの森プロジェクト」。同プロジェクトの経緯や取組状況等を伺いました！

プロジェクトのきっかけは？

2018年に市制となる機会に**那珂川市の特産品を作ろうと**、那珂川市商工会女性部のメンバーが、同市の**シンボル花木「やまもも」に着目**しました。やまももを使ったお菓子やドレッシングを市制施行記念式典のお土産として提供、和洋菓子店やレストランなどで販売したところ、好評だったことから、**同市の支援を受け、「やまももの森プロジェクト」を立ち上げ**ました。

一 開発した商品は？

日持ちがせず収穫時期も短いことから「幻の果実」とも言われる**やまももを一年を通して使えるピューレを開発**しました。甘酸っぱいアクセントを活かして和洋菓子、アイス、ジャムなど次々と商品化しています！

☆やまももを使った商品 → <https://www.yamamomopt.com/>



▲やまももピューレを使ったマカロン「やまももがたり」という統一ロゴシールを作成し、同市の特産品としてアピール



▲福岡女子商業高校の生徒がやまももを使った商品を福岡県庁で販売している様子

※写真は事務局ご提供

「お話を伺いました！」

やまももの森プロジェクトには、市民や市内の福岡女子商業高校、複数の企業・団体に参加してもらっています。那珂川市の豊かな自然と「やまもも」の魅力を伝えていきたいです！

事務局 山崎 美代子 氏

販売イベント等で着用するウィンドブレーカーは、福岡女子商業高校の生徒がデザインしました！

撮影日：令和5年11月

一 今後の展望は？

農業者の高齢化が進み、やまももの生産量確保が課題です。このため、**2020年に耕作放棄地を借りて30本のやまももを植樹**、福岡女子商業高校は授業の一環で生徒がやまももの樹の育成から新商品開発、販売までを行うなど、みんなで特産品を育てています。将来は「観光農園として農村都市交流にも発展していけば！」と夢が広がっています。

意見交換、ありがとうございました！

記事作成担当：九州農政局福岡県拠点地方参事官室 岩永、福山

既存施設を活用した新たな堆肥製造の実証（JA筑前あさくら）

JA筑前あさくらは、有機栽培を体系的に学べる「アグリガールズスクール&アカデミー」（朝倉市）と連携して、新たな堆肥の製造の実証に取り組んでいます。

堆肥の完成後は、様々な農作物の栽培に使用し、慣行栽培と有機栽培の比較を行う予定です。



堆肥の製造工程（二次発酵）は、床下からの送風と積み上げた原料の圧力により、原料の温度を60℃前後に維持管理するのみ（攪拌作業は不要）。約45日で植物に吸収されるアミノ酸を多く含む堆肥が完成予定。



エアレーション設備（右写真）を追加し、堆肥原料の床下から送風（上写真）。

撮影日：令和6年1月

取材へのご協力ありがとうございました！

記事作成担当：九州農政局福岡県拠点地方参事官室 齊藤、江崎、石井

【お問合せ先】

九州農政局福岡県拠点地方参事官室
〒812-0018 福岡県福岡市博多区住吉3-17-21 TEL 092-281-8261（代表）
<https://www.maff.go.jp/kyusyu/fukuoka/index.html>

